



持続可能なインパクトを生み出そう

第3137回例会 (9月9日) ガバナー公式訪問

地区基本方針 新しい扉を開く
会長基本方針 ロータリー活動を楽しもう

会 長 和 田 達 也
幹 事 笠 松 誠 一

勝山・大野合同ガバナー公式訪問例会

勝山・大野ロータリークラブガバナー贈呈

大野ロータリークラブ指岡会長 点鐘

国歌・ロータリーソング・「奉仕の理想」「四つのテスト」斉唱

●勝山ロータリークラブ会長挨拶

和田 達也



平野ガバナー、松田ガバナー補佐、谷崎副幹事長、本日は大野・勝山合同公式訪問にお越しいただきありがとうございます。

皆様にとってはホームグラウンドのようなものですから楽しんでいただきたいと思います。

また、大野ロータリークラブ様には準備、進行をしていただきありがとうございます。

2015年9月より始まった合同例会は今回で12回目になります。両クラブも長年の間親交を深め大変良い関係になっていると思います。

この奥越地域は少子高齢化で人口減少が著しく、子どもたちは奥越地区として作らなければ成り立たないスポーツチームや団体も出ております。

今後は大野勝山ロータリークラブ合同にて奉仕活動ができればと思っていますので、より一層の親睦を深めていきたいと思っています。

●幹事報告

幹事

笠松 誠一

○10月6日は米山奨学生の卓話となります。

○IMの出欠を9月15日までにお願いします。

●出席報告

9月9日 欠席4名 80%

9月1日 欠席4名 80%

●ニコニコ報告

幅田 浩二

平野洋一ガバナー・松田祐一ガバナー補佐

谷崎由美子副幹事長

●大野ロータリークラブ会長挨拶

指岡 市雄



まず初めに、8月末の記録的大雨にて被災された方々、そしてご家族の皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。また、現在も復旧・復興にご尽力されている行政関係者、消防、警察、インフラ復旧工事を担っている地域の皆様へ、敬意を表したいと思います。

平野ガバナー、松田ガバナー補佐、谷崎副幹事長、本日はご多用の中、私どものクラブへお越しいただき、誠にありがとうございます。

ガバナー公式訪問は、地区の方針を直接お伺いし、ロータリーが目指す方向を改めて共有するとともに、私どもクラブの歩みや活動を見つめ直す、大変貴重な機会でございます。クラブの活性化、そして会員一人ひとりの資質向上について、どのような思いをお持ちなのか、直接お聞きできることを、一同楽しみにしております。

さて、本日は私どものクラブにとりまして、もう一つ大変意義深い日でございます。

1963年の発足以来、本日の例会をもちまして、3,000回目の例会を迎えることとなりました。

一回一回の例会を大切に、友情を育み、学びを重ね、そして地域社会への奉仕を続けてこられた。その積み重ねが、今日の3,000回という節目につながっているのだと感じております。

私たち現会員は、その長い歴史の一時をお預かりしているに過ぎません。しかし同時に、その歴史を次の世代へつないでいく責任を担っているのだとも感じております。

だからこそ、この3,000回という節目を、過去を振り返るだけの日とするのではなく、次の歴史を刻み始める新たな出発点にしたいと考えております。

これまで大切にしてきたものを守りながら、時代に合わせて新しい視点を取り入れる。そして、会員同士の絆をさらに深め、より活力あるクラブへと成長していく。

その意味において、平野ガバナーが掲げられる「新しい扉を開く」という言葉は、まさに今の私どものクラブにとりましても、大変意義深いメッセージであると感じております。

本日の公式訪問、そして記念すべき3,000回目の例会が、これまでの歩みに感謝し、これからの未来を考える、意義深い一日となりますことを願っております。

9月15日 プログラム	ゲスト卓話 県大恐竜学部 柴田先生	9月22日 9月29日	休会	10月6日 プログラム	ゲスト卓話 米山奨学生
----------------	----------------------	----------------	----	----------------	----------------

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30 例会場 勝山市市民交流センター

〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地 TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760

URL: <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama> Email: katsuyamarc@gmail.com 編集発行・文責 公共イメージ委員会

平野 洋一 ガバナーアドレス



皆様、ただいまご紹介にあずかりました、国際ロータリー第2650地区ガバナーの平野でございます。福井ロータリークラブに所属しております。本日は皆様の前で話させていただきますことを、大変光栄に存じます。

ガバナーとして地区内のクラブを訪問させていただいておりますが、本日で37か所目となります。まだ3分の1という道のりではございますが、ここ福井県は私のホームグラウンドでもあり、顔なじみの方も多くいらっしゃり、大変心強く感じております。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介と平野家の歴史

まず、私の自己紹介を兼ねて、平野家の歴史について少しお話しさせていただきます。私は現在、福井、東京、そしてガバナーとしての活動拠点である京都と、3つの拠点で生活しております。

私の家系は、元をたどれば越前松平藩に仕える武士の家系でございました。

しかし、明治維新で武士の時代が終わり、曾祖父の代で一度没落してしまいます。

その後、祖父が一家を再興いたしました。祖父は国立衛生研究所に勤めた後、当時日本の統治下にあった台湾へ渡り、昭和4年（1929年）に「平野薬局」を開業しました。一等国民という立場を活かし、台湾に駐留する日本軍へ医薬品を一手におさめることで、商売は大変繁盛したと聞いております。

台湾での祖父の物語

しかし、日本の敗戦により、祖父の立場は一変します。日本軍に協力していたことで戦争犯罪人として追われる身となりました。その絶体絶命の状況で祖父を救ってくれたのが、かつて祖父が学費を援助し、面倒を見ていた二人の台湾人の若者でした。彼らは危険を顧みず、祖父を密航船で日本へ逃がしてくれたのです。その一方で、彼ら自身は祖父を匿ったことで逮捕されてしまいました。

日本へ命からがら戻った祖父は、この恩に報いるため、薬局の隠し場所に保管していた大量の医薬品のありかを二人に伝えました。刑務所から出所した二人は、その薬品を元手に新たな道を歩み始めます。一人は祖父の薬局を再建し、その息子さんが三代にわたって守り続けてくれました。もう一人は製薬会社を設立し、今では台湾有数の企業にまで成長させています。

この話は、父からずっと聞かされておりました。そして数年前、私は台湾でご子息と会うことができました。彼の家には祖父の写真が今も大切に飾られており、祖父が家族の一員として生き続けていることを実感し、胸が熱くなりました。そこには、祖父が施した善意が、時を超えて受け継がれている姿がありました。

ロータリーとの出会いと人生の最終章

私の父もまた、この祖父の「人のために尽くす」という精神を受け継ぎ、熱心なロータリアンとして生涯を捧げました。父がポリオ撲滅活動や学校建設などで世界中を飛び回る姿を見て、素晴らしい活動だと感じてはいましたが、当時の私は自分の事業を大きくすることに夢中で、奉仕活動に目を向ける余裕がありませんでした。

転機が訪れたのは、父が亡くなった後のことです。父の遺品を整理していると、世界中の子供たちと笑顔で写るロータリー活動の写真がたくさん出てきました。その本当に幸せそうな父の顔を見たとき、父の人生がいかに満たされていたかを知り、同時に、ガバナーという大役を引き受ける覚悟が決まりました。

皆様と共に歩む「最後の100メートル」

人生を400メートルトラックに例えるなら、60歳からは最後の100メートル、ラストスパートの期間だと私は考えています。この「最後の100メートル」をどう走るかで、ゴールした時に「自分の人生は幸せだった」と心から思えるかどうかが決まるのではないのでしょうか。

あるYouTuberが行った80代の方々へのインタビューで、後悔として最も多く語られたのは「もっと自分の生きたいように生きればよかった」という言葉でした。しかし、「自分の生きたいように生きる」とは、わがままに生きることではありません。それは、人や社会から必要とされる存在になることだと私は信じています。周りに仲間が集い、支え合える人生こそが、真に豊かな人生ではないのでしょうか。

皆様はロータリアンとして、そのための素晴らしい舞台に立っておられます。ロータリー活動を通じて、社会に貢献し、多くの仲間と繋がることができます。これは、何物にも代えがたい財産です。

今まででできなかったこと、言い出せなかったことに、今から挑戦してみませんか。「今更」ではなく「今から」です。行動を起こすことで、皆様の人生に幸多かれと祈願しましてガバナーアドレスとさせていただきます。



ガバナー・会長幹事懇談会の様子

